

防災マップの作成の仕方について

1. 情報共有を行う（20分）→飽きない程度に

現在の地域のハザードマップではリスクがどのように考えられているのか理解しましょう。

確認すべき防災情報

・地震の時にどのようなになるのか

- ー震度
- ー液状化
- ー火災（シミュレーター使えたらなおよし）

・台風の時にどのようなになるのか

- ー外水氾濫
- ー風害
- ー内水氾濫

全てを危ないと言う風に話すよりも、事前にここはこのような観点から危ないと言うことを認識しておきましょう。

2. まち歩き事前ワーク（10分）

グループをいくつかに分ける（3～4人組）にした後に、それぞれの島において、ワークを行う。自分が知っている危ないところはどこか。事前のイメージとしてどのような感覚を持っているのか確認します。

その上で、どの場所を歩くか決めます。今回は人がそれほど多くなかったため、全員で同じ場所を歩くことにしました。

3. 街歩きワーク（30分）

歩いている中で危ない箇所を探してください。例えば、ブロック塀であったり、電柱が崩れてくると危ないと言う観点で探して見てください。それ以外にもフェンスが倒れて来そう、防災倉庫の場所がここで良いのか？など、色々と探して見てください。

茅ヶ崎市では、市の方で天サイ学くんと言うアプリがあります。これは、位置情報を提供することによって今自分がいる場所が危険であるのか確認することができます。

確認できる主な災害は以下の通り

- ー津波
- ー道路閉塞
- ー地震火災
- ー液状化
- ー倒壊危険度

合わせて見ていただくと非常に有効です。

4. ワーク後のフィードバック（30分）

終わった後に、どのような感じだったのか地図にまとめてください。ペンの色を変えたり、記号を使うことでわかりやすくなります。全体的にまとまってきたら、最後に各班ごとに発見したこと共有してください。

終わった後に、各班のシートを統合して、発見事項などを統一した記号にまとめてあげてください。

→最終的にまとめた図が以下ようになります。

これができたら簡易的な防災マップは完成です。

課題が出たところについては、行政などにフィードバックを行ったり対策を取ったりすることによって対応を行いましょう。